

# 「クリスチャンの宝」

マルコによる福音書 4:21-25

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

序論

伊藤忠の社長室長を退職後、ゴールドウィンで副社長として活躍なさり、晩年ムラサキスポーツの顧問を務めた新田さんの思い出。

新田さんに本当に色々教えていただきました。ムラサキスポーツの出店に合わせて地方に出張した際には毎回、移動の車で隣に座らせていただき、目的地に着くまでずっと話を伺っていました。ビジネスの素人の私がビジネスについて何を質問しても丁寧に、これでもかと応えてくださいました。そんな新田さん、ダンディーでおしゃれな方でした。そんな新田さんに「その時計おしゃれですね！」とある時、申し上げたらこれは若い頃、海外駐在員だった頃の名残だとおっしゃいました。時計がトラブルに巻き込まれたとき何度も身を助けてくれたと。宝は命を救うと。人生で私たちを救う宝とは何でしょうか！

今朝はクリスチャンの宝というテーマでお話したいと思います。

朗読

「また、イエスは言われた。「ともし火を持って来るのは、升の下や寝台の下に置くためだろうか。燭台の上に置くためではないか。隠れているもので、あらわにならないものではなく、秘められたもので、公にならないものはない。また、彼らに言われた。「何を聞いているかに注意しなさい。あなたがたは自分の量る秤で量り与えられ、更にたくさん与えられる。持っている人は更に与えられ、持っていない人は持っているものまでも取り上げられる。」」

マルコによる福音書 4:21-25

導入

イエス様は、神の国に生きる幸いについて、すなわち私たちの宝について灯火をたとえに“それは人目に隠して置けない”と説きました。さらに聞き方すなわち秤について、持っている人はさらに与えられ、持っていない人はもっているものまでとり上げられると教えました。

このイエス様の譬え話しわかりやすいようでわかりづらいです。

しかしイエス様の意図を汲んでその言葉に耳を傾けるとよく分かります。

神の国に生きる幸い、宝とは何か？

それが明るみにされるとはどういうことか？

イエス様の話しの聞き方、秤とは何を意味しているのか？

順に考えたいと思いますが。

その前に…何故、イエス様はこのような分かりづらい譬えを用いて神の国について解き明かしたのでしょうか。

「イエスがひとりになられたとき、十二人と、イエスの周りにいた人たちがたとえについて尋ねた。そこで、イエスは言われた。「あなたがたには神の国の秘密が打ち明けられているが、外の人々には、すべてがたとえで示される。それは、『彼らが見るには見るが、認めず、聞くには聞くが、理解できず、こうして、立ち帰って赦されることがない』ようになるためである。」

マルコによる福音書 4:10-12 新共同訳

それはイエス様の教えを不服として

イエス様の揚げ足をとってイエス様を亡きものにしようとする人々にその働きを邪魔させないよう用心したからです。

本論

では、イエス様が説いた神の国の幸い、宝とは何か！

それはイエス・キリストを神が遣わされた神の独り子として信じて、イエス・キリストによって神と和解し、イエス・キリストのうちにあって、イエス・キリストに結ばれて生きる幸いです！一言で言うなら、それは神の独り子イエス・キリストと関係して生きる幸いを指します。

イエス様は、このイエス様との関係は隠せない、否定できないとおっしゃったのです。

何故、この関係は否定できないのか。

それはイエス様を知り、イエス様に知られているという関係に生きる喜びがあまりに大きいからです。それは人間の手で光りを覆い隠せないのと同じ道理です。

だから聖霊を受けてイエス・キリストを主と告白した多くのクリスチャンが、キリストの名によって迫害されてもイエス様との関係を大切にしクリスチャンというアイデンティティーを手放さず殉教したのです。

それは、イエス様が父なる神との関係を否定出来ずに十字架で死なれたのと同じです。

イエス様の教えを聞く秤とは何か

それは信仰です！

イエス様は信仰によってその教えを聞くものは、恵みに恵みを増し加えられ、信仰によらなければ与えられた恵みさえ失うと警告なさいました。すなわちイエス様との関係に生きるためには、信仰によってイエス様の教えを聞く必要があると説いたのです。

信仰によってイエス様の教えを聞くとは、どういうことか。

それはイエス様にとってあなたは、

“イエス様はその命を捨てるほど大切な存在”だと自覚して常にイエス様の教えを聞くということです。

自分はイエス様はその命を投げ出すほどイエス様に愛された者だと自覚してイエス様の教えを聞く人は、イエス様との関係を失うことはありません。しかしその自覚がなければ、自分がクリスチャンであるとはどういうことかわからなければ、私たちは、どんなに意志が強くても、知識が豊富でも簡単に私たちの宝であるイエス様との関係を否定し、宝であるイエス様を見失ってしまいます。

まとめ

私の祖母が良く口癖のように言っていました。孫は可愛いと。

孫には盗んでも食べさせたいと。

そんな祖母に愛された孫である私が、祖母を憎み祖母の命を付け狙う相手からおまえは～の孫か、そうだとしたらお前を生かしておけないと脅されたらどうしますか？

自分のために罪人になって良いという祖母を自分は知らない、祖母は自分と関係ないと人だと言えますか。言えないでしょう。

もっと言うなら、

自分のいのちが危険にさらされているからといって、私たちは自分の子供、妻、夫、かけがない親友を同じような状況でその人は自分と関係ない、私はそんな人を知らないと言えますか。言えないでしょう。

ペテロはイエス様が敵に囚われとき、お前はあの人と一緒にいた男だと言われ咄嗟に

自分はイエス様を知らないと言いました。しかしペテロは後に、イエス様の十字架の死を通じてイエス様の愛を知り、イエス様の福音を伝えるために殉教しました。

イエス様との関係を宝として生きるものの幸いとは何でしょうか！

それはイエス様が分かち合ってください決して揺るがない、変わらない神の愛を人生の確かな土台、柱として生きることです。イエス様は真実で永遠に変わらない神の愛を分かち合うために、十字架でその命を捨てて私たちを愛し抜いてくださいました。それは、私たちが

永遠に神とともに生きるためです。

皆さん、私はクリスチャンであるという自覚は、私たちをあらゆる苦難、困難から私たちを救う宝です。イエス様を宝として、イエス様との関係を宝として生きる幸いをもっと、もっと味わって生かしていただきませんか。それは、今、ここに生きている私たちを救う私たちの宝です！